

極の横移動の具合によって、リニアモータの速度や動きの滑らかさが左右されます。リニアモータを動かす際に最も重要なのは、この「電磁石のコントロール」です。

新展示では、「電磁石のコントロール」を皆さんに手動で挑戦していただくことにしました。レバーを切り替えると電磁石のN極S極が入れ替わり、リニアモータが動きます。N極S極の向きに連動して電磁石の軸

を青と赤に光るようにしていますので、これを目印にN極S極を上手に横移動させてください。進む速さは皆さんの期待よりもゆっくりだと思いますが、上手にできてもできなくても、日頃は見えないモータ内部の仕組みを感じて、その動きを楽しんでもらえればと思います。

ぜひ皆さん挑戦してくださいね。

学芸員のイチオシ展示⑥

うあ～傾く！「座標の部屋」

市川 真史

見るだけでなく、体で錯覚を感じられるのが、この「座標の部屋」です。への字形屋根の部屋に入り、あおむけに寝て10秒ほど目を閉じ再び目を開くと、水平なはずの床が、なんだか傾いて感じられませんか。

でもこれは、床が傾いたわけではなく、錯覚です。錯覚は、実際におきているのではなく、脳の中でおこっている現象です。

「脳はさまざまな知覚の手がかりを総合して、自分と環境とのあいだの位置や方向の関係を判断しています。あおむけに寝た姿勢では、重力の手がかりがあまり

り使われなくなり、水平な床面がほとんど見えなくなります。そこで視野の大部分を占めている壁と天井の面を基準＝水平垂直の軸と見なしてしまうのです。」
(展示解説パネルより引用)

錯覚の見え方は人それぞれ違い、への字形の屋根の、足側が天井に見える場合は床面が頭側に下がった坂道に、頭側の屋根が天井に見える場合は足側に下がった坂道に感じられるようです。

この展示は2階ロビーの奥の部屋にありますので、お見逃しのないように！

